

好不惺々

河野太通随聞録 (7)

現代臨濟禪を代表する禪匠・河野太通老師。現在、龍門寺（兵庫県・長老、九十六歳の老師に、七十五歳の編者が日頃親しく伺う「好不惺々」な話の紹介です。

大岡 この連載のタイトルに「好不惺々」とつけてるんですよ。好不惺々とは……。

太通 うまいことボケとるな。っていうこと。これはね、趙州（從諗）という、禪録で有名な中国のお坊さんがおりますがね。この人の言葉じゃないかな。好不惺々、うまくぼけとるな、いいボケだなということですね。

大岡 いい言葉ですよ。

太通 惺々ならずということ、それがいいボケになつてることですね。良くボケとるな。

大岡 これから益々年寄りが多くなりますからね。

太通 趙州さんに誰かが会った時にね、好不惺々、上手いことボケとるな、いいボケだな。っていうことですね。

大岡 「趙州無字」の趙州さんですね。

太通 「欲ボケ」ってやつもありますよね。

大岡 欲ボケ、これはいかなですね。欲深な欲ボケ。しかしうまくボケてるというのは、もちろんいいんですけど、具体的に言う、うまいボケってのはどんなボケでしょうか。うまいボケというのはどうしたら、そのようにボケられるのでしょうか。



太通老師と筆者。床の間の墨蹟「好不惺々」(P4)は太通老師筆。

太通 もう欲得がなくなつて、人を笑わせるようなボケを……。

大岡 誰かが喜んでくれて、それ自分の心も裕く穏やかになる。そのためにはどうしたらいいんでしょう。そういうふうにはボケるためには、修行しないといけないのかなあ。

太通 いや、欲をなくすことですなあ。

大岡 年をとれば、自然に欲がなくなるわけでもないですけど、執着をなくしておきたいですね。モノやカネへの執着もありますが、名誉とか世評への執着というのもありますね。年とつて余計にね……。

太通 欲ボケつてことになる。

大岡 欲ボケもあるし、舌切り雀じゃないけど意地悪になる人もいるからなあ。

太通 そういう人がおるらしいですよ。人が来ると、何か持っていったんじゃないかなと……。

大岡 あります、あります。それは普通にあるん

ですよ。

太通 なんでもあげたがる人もおります。

大岡 これも問題ですかね。取られたとかね、あげるとかねえ……。ほどよいボケ、人をニコニコさせるようなボケってなかなか難しいけれど、欲を捨てるというか、欲をなくす、若い頃からの精進が大切なんでしょうね。うまくボケたいなら、ボケていない今こそ大事だと、老大師も書いておられましたね。

太通 そうですか。やっぱり、奥様方はボケても、なんでもあげるっていうようなボケは、難しいでしょうね。家庭を預かっているから、何でもあげちゃ大変だから、なんか置いてつてと……。

大岡 「わしゃ福いらん」って、(山田^{やまだ})無文^{むもん}さんは、よく色紙に書かれていましたけど、無文老師はやっぱりみんなにあげる方ですか。

太通 無文老師はやっぱりあげる方でしたな。

大岡 だからいろんなね、講演でもらってきたようなものも僧堂とか禅文化研究所に……。……。

太通 老師はあげる方ですか、溜め込む方ですか。

太通 もらえないし、上げるものがない。

大岡 ハッハッハ。いやいや、いっぱいみんなにいいお話を分けて差し上げているじゃないですか。いくら上げてもこれは無くならないですね。

太通 最近はいくらいたくことがなくなりました。私はね、これは社会的な一つの有り様だと思います。あまり物の無い時こそ、人がおいでになるときに何か持つておいでになつとつた。ところがだんだんそういう物に不自由がなくなつてから、人様もあんまりお持ちにならなくなつた。昔はものがない時にはとにかく何か持つてよく置いてつて、物が溜まつたですよ。そういうことだと思うんですよ。だから無文老師のときにも本当によく物が溜まつた。溜まつて本当に座るところもな

いほどになるから掃除するのに我々が困る。もう勝手にあまり老師にも聞かずにですね、これはいらんもんだからと、どんどん片付けたもんですね。昔はこんな小さなテレビまでもらったりした。

大岡　すごいですね。

太通　老師の座る前に小さな囲炉裏が切つてある。その周りに物をとにかく置かれるもんだから、崩れて囲炉裏の中に入りやせんかと思って、しょっ



河野老師書「好不惺々」

ちゅう、その周りを片付けとつたですがね。歳をとると、だんだんそういう物を片づけることが面倒くさいからやらなくなる。

大岡　いろんなもらったものなんか、そういうところに置いてあるわけですね。今、老大師は片付けしてらっしゃいますか。

太通　私もね、片付けは下手くそ。下手っていうかできない方ですね。だから、ある日突然に片付け

を、とにかく捨てるものを捨てて、ある日突然に綺麗になる。

大岡 九十六歳ですからねえ。私は若い時から苦手ですが……。

太通 しばらくして雑然となると、またある日突然にやり始めて、片付けまくるんですよ。

大岡 ハハハ。「好不惺々」と題に使わせてもらったのは本当に良かったですね。もう、まさにそういう内容で……。いい言葉ですね。もしボケてしまっても「ああ、うまくボケなさっていますなあ」と言われるようなボケ方をしたいですね。

太通 良くボケとるなあ、とね。

大岡 だんだんその意味がしみじみわかるような年になってきたので……。日本人、高齢化社会の今、大事な言葉です。良くボケるために必要なことを今から心がけたいですね。

(つづく)

【編者】

大岡 哲（おおおか・さとし）

昭和二十六年（一九五二）生まれ。東京大学卒業。日本大学、慶応義塾大学、スタンフォード大学など、内外の大学で教育、研究にあたる。専門は、政治経済学、都市論。長年、禅に親しみ、和尚方の知遇を受ける。現在、丸の内坐禅会（東京）世話人。